

南那須地区広域行政事務組合
 一般廃棄物処理施設整備基本計画（し尿処理施設）検討委員会
 第4回議事録（要旨）

【開催概要】

開催日時：令和5年10月3日(火) 13時30分～15時00分

開催場所：南那須地区広域行政センター 2階会議室

【出席者】

〔委員〕

| No. | 区分 | 団体名等 | 氏名 | 備考 |
|-----|-------|-----------------------|--------|----|
| 1 | 学識経験者 | 公益社団法人全国都市清掃会議 技術指導部長 | 荒井 喜久雄 | |
| 2 | | 宇都宮大学 名誉教授 | 三橋 伸夫 | 欠席 |
| 3 | 那須烏山市 | 那須烏山市 副市長 | 熊倉 精介 | |
| 4 | | 那須烏山市 参事兼総合政策課長 | 菊池 義夫 | |
| 5 | | 那須烏山市 参事兼まちづくり課長 | 小原沢 一幸 | |
| 6 | | 那須烏山市 参事兼都市建設課長 | 佐藤 光明 | |
| 7 | | 那須烏山市 上下水道課長 | 石嶋 賢一 | |
| 8 | 那珂川町 | 那珂川町 副町長 | 小松 重隆 | |
| 9 | | 那珂川町 企画財政課長 | 深澤 昌美 | 欠席 |
| 10 | | 那珂川町 生活環境課長 | 杉本 篤 | |
| 11 | | 那珂川町 建設課長 | 横山 和則 | |
| 12 | | 那珂川町 上下水道課長 | 加藤 博行 | |
| 13 | 組合 | 事務局長 | 小口 正一 | |

〔事務局〕

| No. | 区分 | 団体名等 | 氏名 | 備考 |
|-----|---------|--------------------|--------|----|
| 1 | 組合 | 保健衛生センター所長兼施設整備室長 | 大谷 光幸 | |
| 2 | | 施設整備室係長兼衛生センター係長 | 堀江 辰徳 | |
| 3 | | 衛生センター専門員兼施設整備室専門員 | 塩野目 修一 | 欠席 |
| 4 | | 衛生センター主事兼施設整備室主事 | 南木 桃子 | 欠席 |
| 5 | | 衛生センター主事兼施設整備室主事 | 福田 凌平 | |
| 6 | 那須烏山市 | 上下水道課担当者 | 藤田 善永 | |
| 7 | 那珂川町 | 上下水道課担当者 | 菊池 良 | |
| 8 | コンサルタント | 株式会社エイト日本技術開発 | 長尾 竜二 | |
| 9 | | 株式会社エイト日本技術開発 | 勝見 慧 | |
| 10 | | 株式会社エイト日本技術開発 | 細川 和也 | 欠席 |

1. 開会

2. あいさつ

3. 議題

(1) メーカーアンケート調査結果について

- ・資料1のメーカーアンケート調査結果について説明をお願いします。(委員長)
→事務局より説明。(事務局)
- ・意見、質問があればお願いします。(委員長)
- ・第1希望の処理方式について、「方式5：下水道放流、生物学的脱窒素処理方式、堆肥化方式」の第1希望が0社となっていますが、選ばれなかった理由を教えてください。(委員)
→堆肥化方式の施設整備の経験がないメーカーもあり、第1希望としてあげていないことが考えられます。また、経験はあり、建設費を回答いただいたメーカーもいるのですが、メーカーとして望ましい処理方式としては第1希望にならなかったと考えられます。(事務局)
→はい、わかりました。(委員)
- ・国交省から下水道事業において下水道管理者は今後、発生汚泥等の処理を行うにあたって肥料としての利用を最優先とし、最大限の利用を行うようにとの通知が出されているため、今回のアンケート調査結果を踏まえて、下水道事業も考慮し、処理方式決定に向けて検討いただきたい。(委員)
→今回のメーカーアンケートでは、下水汚泥を加味して検討をしていませんが、例えば、堆肥化方式が選定された場合、堆肥化設備に下水道の脱水汚泥を入れて、合わせて堆肥化することは施設としては可能だと思います。ただし、下水汚泥を処理量に見込んでいないため、維持管理費や建設費は今回のメーカーアンケート結果から変動する可能性が高いです。汚泥再生処理センターでは、下水汚泥も有機性廃棄物扱いになりますので、交付金対象として合わせて処理をすることは可能ですので、今後の検討は可能だと考えます。(事務局)
→わかりました。事業手法の選定についても、下水道料金等は処理方式によって変わってくる心配もありますので、下水道も加味して検討いただきたい。(委員)
→現段階では、放流先の下水処理場も決まっていなかったため、下水汚泥量等は見込んでいません。今後の検討課題です。(事務局)
→はい、わかりました。(委員)
- ・他に意見はないようですので、メーカーアンケート結果は以上とします。(委員長)

(2) し尿処理方式の選定について

- ・資料2のし尿処理方式の選定について説明をお願いします。(委員長)
→事務局より説明。(事務局)
- ・意見、質問があればお願いします。(委員長)
- ・「方式5：下水道放流、生物学的脱窒素処理方式、堆肥化方式」の運転人員が4～7人と多いのは、なぜですか。(委員長)

→メーカーによって多少の幅はありますが、「方式5：下水道放流、生物学的脱窒素処理方式、堆肥化方式」は生物処理を行うので、「方式4：下水道放流、前脱水＋希釈方式、助燃剤化方式」と比べると生物処理設備の管理人員が多くなるのと、助燃剤化と比べて堆肥化の場合は設備点数が増えるので、その分人員が増えます。（事務局）

→ありがとうございます。（委員長）

- ・評価項目について、一般的な項目なのでしょうか。評価項目の設定方法について決まっているのかも含めて教えていただきたい。また、大項目単位で考えた際には安全性の配点を下げ、資源循環の配点を上げてもいいのではないかと思います。小項目単位で考えた際に、施設建設費と建屋面積、用役費、点検補修費、人件費等と維持管理性は重複しているように感じました。（委員）

→ありがとうございます。まず、評価項目については一般的な項目設定をしておりますが、大項目はごみ処理施設の基本計画検討員会でご提示していました大項目とあわせております。小項目については施設の特徴が違うので、し尿処理施設の評価として一般的な項目を挙げています。ご指摘いただいた通り、施設建設費と建屋面積等重複しているようにも取れますので、統合するかどうか委員会でご意見をいただいて、再度評価したいと考えています。（事務局）

- ・堆肥化と助燃剤化で交付金の取扱いが異なる等の条件はございますか。（委員長）

→堆肥化も助燃剤化も資源化として、どちらも交付金として対応可能です。（事務局）

→経済的な差は、設備点数等元々の建設費の総額は堆肥化の方が高価となりますが、交付率で考えるとどうなりますか？（委員長）

→交付率はどちらも1/3ですが、施設全体として交付対象範囲は堆肥化も助燃剤化も大きく変わらないと思われるので、建設費の総額が高ければその分持ち出しも増えますが、どちらの処理方式でも交付金対象での整備が可能だと考えています。（事務局）

- ・資源循環の配慮の配点を挙げた方がよいのではないかというご意見もありましたが、どう考えますか。（委員長）

→事務局としては、一般的な考えで重み付けを行いました。経済性に関する配点が重くなってしまっています。今回のご意見を踏まえて、資源循環に関する配点の重み付けも検討するべきだと考えますが、資源物の需要について、本組合圏域は農村地帯なので堆肥の需要はあるとは思いますが、価格等の条件設定も現時点ではできない中で重み付けは難しく、一般的な案でご提示させていただいた次第になります。（事務局）

- ・組合議会では、SDGsという言葉がよく出てくるのですが、SDGsに対して考慮したのかとご指摘いただいた際に、きちんと答えられれば問題ないと思うので、環境配慮はする必要はあると思います。お金がかかってもいいから環境に配慮すべきだという考えもあるので、ある程度説明できる確認は必要かと思えます。（委員）

→説明責任は重要な観点ですので、評価項目がきちんと説明できるか、特に環境対策、SDGsという観点での発言でしたがいかかでしょう。（委員長）

→ご意見の通りかと思えます。議会からも世界的に気象状況等の話を踏まえて、考慮すべきだという話をよくいただいています。SDGsであれば水関係にも配慮した項目があるので、そちらに関しても波及する可能性があります。（事務局）

→SDGsのどの項目に該当するかということで、きちんと説明できるように環境配慮という考え方で答えられる評価項目になるようにしてください。（委員長）

→わかりました。(事務局)

- ・下水道施設を管理する立場からすると、堆肥化やリン回収に努めるという国の方針は相当重みがある内容になっています。重み付けの際に、国交省の方針等を考慮してご検討いただいているのでしょうか。また、評価は、本地域の条件を考慮して検証されているのでしょうか。(委員)

→国交省通知による下水道の発生汚泥処理に関する基本的な考え方は当然意識していますが、第2回委員会で排水処理体制を整理し、本地域は都市化が進んでいなく下水道人口が7千人とあまり多くなく、下水汚泥の話について踏み込んで協議も行っていない。現段階まで今回のし尿処理施設はし尿処理であり、し尿、浄化槽汚泥、農集排汚泥という下水汚泥以外の対象物の処理の話で進んできています。下水汚泥を入れると処理量が増えるため、建設費、維持管理費も今回のアンケートより高価になると思われれます。よほど政策的にやっていくつもりがないと、重み付けも難しいと考えています。また、本地域の特性を考慮して評価していますが、堆肥の需要があるか等不鮮明な部分については重み付けがなかなかできていない状況です。(事務局)

→下水汚泥は政策的なあらずじが必要なため、し尿、浄化槽汚泥、農集排汚泥等を優先せざるをえないという考えですね。(委員長)

→そのとおりです。(事務局)

- ・地元住民の理解について、現時点での議論ではないかもしれませんが、4カ所の下水処理場がありますがどこに流すのでしょうか。下水処理の状況によっては、どれだけの量が入るのかわかりませんが増設等も必要になる可能性があり、そうなった場合にごみ処理施設と同様に棒に振ってしまわないのか重く感じています。そのあたりの評価項目があっても良いかと思えます。(委員)

→本事業について確認させていただきますと、本地域は4つの下水処理場があり、下水道に接続していない場合は集落排水や民間の集合浄化槽、合併処理浄化槽、単独処理浄化槽、汲取りで対応しています。今回整備を検討しているし尿処理施設は下水道をのぞくし尿処理が対象になりますので、下水道は対象にしていません。現在の施設は、施設規模70kLであり、現在の人口に対してとオーバースペックなサイズになっていることから、下水道以外を対象とした新しい施設を更新しようと始まっています。平成27年度の構想においては、既存の施設を更新するという想定でしたが、ここ2~3年で下水道放流の処理方式が段々増えてきていることもあり、下水道放流方式の検討を行っています。栃木県としても昨年度までに、生活排水処理構想を策定し、下水道放流による広域化に取り組んでいるところが多くでてきています。地元住民の理解については、現在の候補地を想定すると河川放流方式はかなりの反対がされているので△とし、下水道放流方式もバキュームカーが新たに集まることになるとため○としています。下水道放流方式の方がコスト的には安いのですが、下水道放流を選定した場合、どこの下水処理場に投入するかは検討する必要があります。なお、第2回委員会にて下水道放流先の検討を行っており、4施設のうち2施設は受入れ可能と想定されましたが、メーカーアンケート結果により希釈倍率がわかりましたので、再検討してご提示できるかと考えています。ただし、あくまで可能性の確認なだけであるため、どの下水処理場に投入するか決定する話にはならない状況です。本施設の処理方式、事業手法を次回委員会までに検討して結論を出したいと思っておりますが、放流先や水処理方式、資源化方式と複雑化しているた

め、結論を出すことが難しいと思います。そこで、知識の共有を目的として、市町の主に下水道や環境担当者等で事務打ち合わせをやってみたいと考えています。(事務局)
→様々な議論が出て決めきれないことがあるため、担当者で打合せをし、意見交換したうえで、評価を見直していきたいという事ですが、よろしいでしょうか。(委員長)
→異議なし。(一同)
→担当者で意見交換をするということをお願いします。(委員長)

(3) 事業手法の選定について

- ・資料3の事業手法の選定について説明をお願いします。(委員長)
→事務局より説明。(事務局)
- ・意見、質問があればお願いします。(委員長)
- ・ごみ焼却施設等でDBO方式が増えていると思いますが、し尿処理施設ではどうですか。(委員長)
→最近、し尿処理施設でもDBO方式を採用している事例が増えています。直営職員の方が居られる場合は、もう少し先で考えているという場合もありますが、増えてきている印象があります。(事務局)
→職員の方が居る場合は配置転換や退職等の対応をしないといけないことから、すぐにDBO方式でというわけにはいかないという事ですね。(委員長)
→その通りです。(事務局)
- ・VFMについては1.2~1.4%ですが、この辺は普通ですか。(委員長)
→し尿処理施設は建設費に対して、運営費もそれほど高価とにならないので、公設公営とは差がつきにくいと考えられます。(事務局)
- ・DBOの場合は、PFI法に準じて手続きされる、ある意味で透明性、公平性につながっているという考え方でいいですか。(委員長)
→その通りです。(事務局)
- ・今までは入札公告して終わりでしたが、DBOの場合は実施方針で工事の発注を予告して、意見を述べて、契約条件等を公表して行うため、透明性、公平性が担保されるという理解でよろしいですか。(委員長)
→その通りです。(事務局)
- ・組合としてDBOを採用するかしないかは、今回と次回を使って決めたいという理解でよろしいですか。(委員長)
→その通りです。(事務局)
- ・事業手法の選定については以上とします。(委員長)

(4) その他(次回の日程、内容等について)

- ・資料4の通り、第5回委員会を11月に予定していますので、後日、日程調整させていただきます。内容については検討項目欄の通りとなっています。よろしくをお願いします。(事務局)
- ・組合議会でし尿処理施設の基本計画について中間報告をしてほしいとの連絡がありました。この要請に対して事務局としては11月29日の臨時議会にて報告を考えています。(事務局)

- ・し尿処理施設はごみ処理施設と併設方式での候補地がありますが、そちらの候補地は色々な反対意見をいただいています。今年の2月に反対している団体様から公開質問状をいただき、8月に回答しています。その後、反対者による会報等は出ていませんが、情報公開請求が出てまいりましたので、内容を公開する予定です。候補地選定の会議資料等も請求されており、近日、開示する予定です。以上報告です。(事務局)

4. 閉会